自 己 評 価 票

○ 自己評価は全部で100項目あります。
○ これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
○ 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
○ 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

○ 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
Ⅰ．理念に基づく運営	22
1．理念の共有	3
2．地域との支えあい	3
3．理念を実践するための制度の理解と活用	5
4．理念を実践するための体制	7
5．人材の育成と支援	4
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1．一人ひとりの把握	3
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3．多機能性を活かした柔軟な支援	1
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1．その人らしい暮らしの支援	30
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
Ⅴ．サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

［取り組みの事実］
ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

［取り組んでいきたい項目］
今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

［取り組んでいきたい内容］
「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

［特に力を入れている点・アピールしたい点］（アウトカム項目の後にある欄です）
日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 ＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家　族 ＝家族に限定しています。
運営者 ＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員＝ 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム ＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（№1から№87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（№88から№100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	老人グループホームけやき
（ユニット名）	
所在地（県・市町村名）	鹿児島県鹿屋市串良町細山田5902番地3
記入者名（管理者）	尾崎まなみ
記入日	平成　21年　4月　20日

（様式１）

自己評価票

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 　地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者一人ひとりの能力に応じて、その人が自立した生活が送れるよう、スタッフ全員がグループホームの在り方を考え、特性を把握して理念を作成している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 　管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を日常的に確認できる所に掲示し、スタッフ全員がその理念に沿ったケアを提供できるように取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 　事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	パンフレットを行政機関や民生委員等に配布し、施設の運営理念の浸透を図るとともに、ホーム便りやホームページでも掲示している。又、施設はいつでも気軽に見学できるよう開放しており、来訪者にはグループホームの機能や役割を説明している。		
2．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 　管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域の小組合に法人で加入しており、笑顔を大切にし気軽に近隣の人々と挨拶を交わしている。 又、施設の玄関には、季節の草花を飾り優しい家庭的な雰囲気にし、いつでも自由に立ち寄れるよう努めている。		
5	○地域とのつきあい 　事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	花見等の地域の行事には積極的に参加するとともに、施設の夏祭り等の行事にも地域の人々を招待し、多くの人々と触れあいの場をもうけ交流を図っている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	○事業所の力を活かした地域貢献 　利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	身体機能に応じた介護機器や高齢者の生活しやすい施設環境等、地域の高齢者が生活するために必要な情報を提供したり、施設見学等も随時受け入れ、認知症の高齢者がその有する能力を活用して生活できることが理解できるよう取り組んでいる。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 　運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	スタッフ全員が評価の意義を理解し、評価を処遇会議等で定期的に改善に向けて見直し、取り組んでいきサービスの質の向上に繋げていけるよう努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 　運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の日常の様子や行事等への取り組みを写真等を用いて報告し、自己評価の説明や外部評価の結果についても公表し、事業所の改善課題を話し合う等、より良いサービスの質の向上に繋げている。		
9	○市町村との連携 　事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には市職員も参加し意見や要望等を交換、又、利用者の書類等の代行やホーム便り等は郵送せずに直接行政機関へ持参し、日頃から連携が保てるように努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 　管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員会議等で権利擁護に対する研修を行い、県社協等が主催する研修等にも参加するとともに、事業所にリーガルサポートの案内も掲示して随時相談に応じている。		
11	○虐待の防止の徹底 　管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法における虐待の定義や内容を、職員会議等で十分検討し、スタッフ全員が身体拘束による人権の侵害等をよく理解し、利用者に対する虐待が起こらないよう取り組んでいる。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
12	○契約に関する説明と納得 　契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホームの概要やサービス内容等を、重要事項説明書で分かりやすく説明し、利用者や家族に不安な様子が見られたらスタッフから問いかけを行い、話し合いの時間を十分取り、理解や納得が得られるよう努めている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 　利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から利用者と十分なコミニケーションを図るよう心がけ、随時利用者の意見等を聴くように努め、改善すべき事項は直ぐに対応している。又、運営推進会議においても、利用者が何でも気軽に意見を話せるような雰囲気を作っている。		
14	○家族等への報告 　事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の生活状況や健康状態は、必要に応じて電話連絡や面会の際に報告し、又、毎月発行している「けやき便り」に様子等を記し報告している。金銭管理については毎月収支を報告し、又、職員の異動については、随時利用者や家族に説明している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 　家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居の際等、事業所の相談・苦情受付担当者と、外部の受付機関である第三者委員、行政等の担当を詳しく説明し、又、玄関には苦情箱を設置し、いつでも意見や不満等に関する対応ができる体制を整えている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 　運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設内は、職員がいつでも意見や提案が出せるような雰囲気にし、又、毎月の処遇会議等で出された意見や提案も、随時運営者へ報告し管理者と共に改善について検討したり、定期的に管理者が職員と個別に話し合う機会をもうける等、施設や職員のサービスの質の向上を図っている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 　利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の日常生活のリズムに応じた勤務体制を考え、夜間も2名体制できめ細かく対応している。又、スタッフが施設の行事等や個々の利用者の生活状況に合わせ、必要な時に適宜見直しを行い調整している。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
18	○職員の異動等による影響への配慮 　運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者と職員の馴染みの関係を重視しているが、やむを得ず異動が生じる場合も認知症介護に適した人材を選び、利用者に影響がないように配慮している。又、職員は正職員として配置し、サービスの質が低下することのないよう職員の処遇にも留意している。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 　運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時の施設内の新任職員研修や県社会福祉研修センター主催の階層別研修会、又、グループホーム協議会等の各種研修に交代で参加するようにし、自己研鑽を深め資質の向上を図っている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 　運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大隈地区や県のグループホーム連絡協議会に加入し、研修会や勉強会、セミナー等に参加して情報交換をおこなっているが、相互に施設訪問をおこない職員同士の交流を図る機会ができていない。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 　運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人職員の親睦会等で定期的な交流をおこない、心身のリフレッシュを図っている。業務の中ではお互い助け合いながら、楽しい雰囲気で働けるように、又、ミーティングや処遇会議等では意見や疑問・悩み等を積極的に揚げてもらうよう努めており、相談等随時対応できる体制をとっている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 　運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員一人ひとりの能力に応じてスキルアップが図れるよう、段階的に必要な研修に参加し自己啓発できる環境を整えている。又、必要な資格取得に対しては、受講費用を事業所が負担している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**				
23	○初期に築く本人との信頼関係 　相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居される前には自宅を訪問し、本人や家族と面談をおこない、生活歴や趣味・嗜好、本人が大事にしていることや大事に思っていること等、日常生活について聴き、入居されても在宅に近い状況で生活していただき、本人や家族が不安を感じることがないような関係づくりに努めている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
24	○初期に築く家族との信頼関係 　相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族との信頼関係を築くために重要な時であるため、こちらから声をかけるように努め、何でも話せるような雰囲気を作り、言葉だけでなく表情や仕草にも十分注意しながら真摯に受け止めている。		
25	○初期対応の見極めと支援 　相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が現在どのようなことで困っており、何を求めているのかを適切に把握し、グループホームの説明だけでなく、必要に応じ他の介護保険サービスや医療・保健サービスについても説明を行い、又居宅介護支援事業所等の紹介もおこなっている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 　本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人・家族に施設の見学や体験入居を勧めており、施設の雰囲気を味わって頂き、少しでも他の入居者との馴染みの関係を作り、戸惑うことなく安心して利用できるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 　職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの能力を生かし、可能な限り料理や洗濯・掃除等を一緒におこない、不足する部分は職員が補い、又、職員も利用者に学ぶ姿勢で互いに協力し合いながら、家族同様の関係を築いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 　職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られる家族とは、その都度情報交換をおこない、利用者と疎遠な家族には事業所から面会や電話での連絡をお願いし、利用者が寂しさや孤独を感じることのないようコミニケーションに努め援助している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 　これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	毎月「けやき便り」を発行して近況を報告すると共に、面会時だけでなくできるだけ利用者と家族が一緒に楽しく過ごせる時間が持てるよう、家族へ各種行事への参加案内を随時おこなっている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 　本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設の特養やデイサービスを利用されている家族や友人・知人との面会の支援、在宅時に利用していた商店や美容院へ出かけたり、又、ボランティアに来ていただく等、大切な馴染みの人々との関係が継続できるように努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 　利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う利用者同士が、安心してゆっくり過ごせるよう、ホールやソファー等の座る位置を考え、孤立しがちな利用者に対しては、職員が間に入り他の利用者と交流が図れるよう誘導しながら支援している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み 　サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了しても、関わりを必要とする利用者や家族には、家族や本人の状況を把握し、来所時や電話での相談等に応じ、家族や本人が少しでも安心していただけるよう努める等、契約終了後の関係も大切にしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント **１．一人ひとりの把握**				
33	○思いや意向の把握 　一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の面会等において、本人の生活歴や職歴・趣味・嗜好等を把握し、残されている能力を活用しながら、その人のペースに合った、本人の望む生活が送れるよう支援している。		
34	○これまでの暮らしの把握 　一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅での日常生活状況や生活習慣等を本人や家族から聴くと共に、本人の有している能力を把握し、居宅介護支援事業所や居宅サービス事業所と情報交換をおこない、サービス利用に至った経過等についての把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 　一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	全職員が利用者の生活のペース・ＡＤＬ状況等を把握し、心身状態の変化についても随時ミーティングや処遇会議等において報告し情報を共有、常に現在の状態を把握するよう努めている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 　本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人や家族からアセスメントを実施し、解決すべき課題を明らかにした上で、希望や要望を聴きながら、本人・家族・スタッフとともに介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 　介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月毎に見直しをおこなっているが、状態が変化した際は、スタッフだけでなく本人や家族も含めたサービス担当者会議で話し合いをおこない、現状に即した介護計画を作成している。		
38	○個別の記録と実践への反映 　日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者一人ひとりのケース記録には、毎日の生活状況や変化等を記録し、変化があった場合は、その都度ミーティングや連絡帳等で全職員が情報を共有できるようにし、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
3．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 　本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	絶えず変化する利用者や家族の意向に適切に対応できるよう、小規模施設の特徴を生かし、臨機応変な支援をおこなっている。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 　本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	夏祭りや敬老祝賀会等の行事には、民生委員やボランティア・行政機関・学校関係者等を招待し、又、運営推進会議には、地域の消防団長も委員に加え、地域の機関との関わりを密におこなっている。		
41	○他のサービスの活用支援 　本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	居宅介護支援事業所や介護保険施設、行政機関や社会福祉協議会等が実施している介護保険以外のサービスについても、十分な情報交換をおこない必要に応じ支援している。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
42	○地域包括支援センターとの協働 　本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの役割や機能を把握し、事業所内では解決困難な事例が生じた場合に迅速に対応できるよう、地域包括支援センターやサブセンターとの連携を密におこなっている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 　本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の本人のかかりつけ医療機関や、本人や家族が希望する医療機関と協力関係を築き、安心して医療が受けられるように支援している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 　専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医を協力医療機関として確保し、定期的に受診をおこない、利用者が安心して治療が受けられるよう支援している。又、職員が相談し指示や助言を受けている。		
45	○看護職との協働 　利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	利用者のかかりつけ医療機関の看護師や併設の特養やデイサービスの看護師等と連携を取り、協力しながら適切な健康管理をおこなっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 　利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した際は、本人に関する情報や介護内容等を医療機関へ提供し、スムーズに医療と介護が受けられるよう支援している。又、定期的に医療機関のソーシャルワーカーと連絡を取り、本人の状態を把握し早期退院に向けて連携を図っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 　重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に本人や家族に対し、重度化した場合の施設の方針を説明し、状態が変化した場合は随時話し合いながら、本人や家族が希望する適切なサービスが受けられるよう支援している。終末期に対しては医療機関での治療を優先している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 　重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	常駐の医師や看護師は配置しておらず、現在は終末期を対象としたサービスは検討していない。 又、重度や終末期の利用者については、今後も家族と十分話し合いながら検討していく。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人の状況や生活習慣等の情報提供をおこない、本人・家族が不安なく安心して過ごしていただけるよう努めている。		
1．その人らしい暮らしの支援 **（1）一人ひとりの尊重**				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの保護や人権の尊重には、特に注意を払い思いやりを持って接している。又、個人情報の取り扱いについても、全職員で細心の注意を払いながら気をつけて対応している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	希望や要望に対しては、選択肢をできるだけ多くし利用者一人ひとりに合った説明をおこない、本人が自己決定しやすいように工夫している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせてサービスを提供し、毎日本人の希望や体調等を勘案しながら、希望に沿って散歩や外出・買い物等の支援をおこなっている。		
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣類は本人の好みを尊重し、好みの物を一緒に選び、美容院は家族の協力をいただきながら、本人の行きつけや希望する店に出かけ、好みの髪型にしてもらう等し支援している。又、本人の希望があれば理容ボランティアを利用できる等、本人の意志で決定できるよう支援している。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	併設特養の栄養士が作成した献立を中心に、利用者の好みや希望を調理に活かしながら支援している。嫌いな物やアレルギー等があれば代替品で対応し、日曜日の夕食は希望を取り入れ利用者と職員で献立を作り、可能な限り準備や調理・後片付け等を一緒におこなっている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
55	○本人の嗜好の支援 　本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつ等は職員とともに買い物に行き、本人が好みの物を選ぶ機会を提供して、少しでも楽しみが味わえるような支援をおこなっている。又、職員は一人ひとりの嗜好品等を把握した上で、状況に応じて提供し楽しんでいただけるよう努めている。		
56	○気持よい排泄の支援 　排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄のリズムや間隔等を把握し、定期的に声かけや誘導をおこない、個々の残存機能を活かした自立支援に努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 　曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日や入浴の時間に縛られず、又、無理に入浴を勧めたりせずに、本人の意思で決定してもらい入浴している。希望があれば、いつでも入浴でき楽しんでもらえるように対応している。		
58	○安眠や休息の支援 　一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は屋外散歩やレクリエーションによるリハビリ体操等をおこない、適度な運動を取り入れながら、夜間の安眠に繋がるよう援助している。特に就寝時間を決めておらず、個々の生活リズムに合わせた睡眠を支援している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 　張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物の整理や食事の準備・後片付け等、一人ひとりの生活歴や有する能力を引き出すことできるような声かけをおこない、利用者が役割や楽しみ・生きがいを持って生活していけるよう支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 　職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外食や買い物の際には、本人の希望する物を本人のお金で購入される。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
61	○日常的な外出支援 　事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の一人ひとりの体調や希望、天候等に応じ、屋外散歩や外食・ショッピング等を支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 　一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者や家族等に行きたい所を聴き、可能な限り実現できるよう行事計画に反映している。又、四季を通して花見やみかん狩り、夏祭り等の地域の行事にも積極的に出かけている。		
63	○電話や手紙の支援 　家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望すればいつでも電話は利用でき、手紙に関してもプライバシーに配慮しながら支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 　家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の制限は特になく、又、各居室にはテーブルや椅子を置き、面会者がいつでも利用者とゆっくりと気軽に過ごせるよう支援している。		
（4）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 　運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	県主催の身体拘束廃止推進研修に積極的に参加し、全職員が身体拘束による弊害等の正しい知識を共有しており、拘束はおこなっていない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 　運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間は玄関の鍵はかけず、夜間のみ施錠（夜間センサー設置）している。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
67	○利用者の安全確認 　職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	台所は対面式であり、ホールにも常に職員を配置した上で、職員同士が常に声をかけ合いながら連携を取り、利用者の所在の把握と安全の確保に努めている。又、不慮の事故等に対しても直ぐに対応できるような体制で支援している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 　注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品は、保管場所や管理方法を明確に決めて施錠のできる所に保管し、それ以外の物は見守りや声かけ等をおこない対応している。		
69	○事故防止のための取り組み 　転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態を把握した上で、あらゆる事故を想定し、事故を未然に防ぐための対策を全職員で話し合い、それを利用者一人ひとりの介護計画にも取り入れ事故防止に努め援助している。		
70	○急変や事故発生時の備え 　利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	入職時に特養の看護師による応急手当等の研修をおこなったり、処遇会議等において定期的におこなうようにしている。緊急時に対する各種マニュアルがあり、全職員が熟知している。		
71	○災害対策 　火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	警察署や消防署・行政への緊急時の対応は確保され、定期的に避難訓練も実施している。又、法人で地域小組合に加入し、利用者の緊急時に対する地域の協力体制も整っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 　一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	入居時やサービス担当者会議等において、起こり得る不慮の事故等について家族に十分説明し、対応策について会議の中や面会の際等に職員と家族で話し合いをおこなっている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 　一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	全職員が一人ひとりの既往歴や普段の体調を把握し、毎日のバイタルチェックや様子観察等で体調の変化に早期に気づくようにしている。異常に気づいた際は、必要に応じ早急に家族や主治医に連絡し対応している。		
74	○服薬支援 　職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの内服薬の説明書やお薬手帳等を整理し、目的・用法・副作用等について職員は理解しており、いつでも確認できるようにしている。 又、症状の変化についても注意し観察している。		
75	○便秘の予防と対応 　職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄のチェック表を作成して、一人ひとりの排便の間隔を把握し、自力での排便が困難な利用者については、主治医に相談し指示を得て対応している。又、食事にはなるべく繊維物を多く取り入れるようにし、水分補給や適度な運動をおこなっている。		
76	○口腔内の清潔保持 　口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自力で口腔ケアが可能な利用者には、食後声かけや誘導をおこない、自力で不可能な方に対しては、声かけしながら介助している。又、口腔ケアの際には、職員は口腔内を観察し歯周病等のチェックをおこなっている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 　食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設特養の栄養士が計算したカロリーの食事を、一人ひとりの適量に合わせて提供し、食事や水分摂取量等、毎日チェックし記録している。		
78	○感染症予防 　感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、ＭＲＳＡ、ノロウイルス等）	各種感染症に関するマニュアルがあり、インフルエンザについては、利用者や家族の同意書を得て、かかりつけ医で予防ワクチンを接種している。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
79	○食材の管理 　食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫や台所用品等は、消毒や乾燥を徹底しておこない衛生管理に努めている。食材は信頼のある業者より新鮮で安全な物を、その日に使う分はその日に納入してもらい、管理にも細心の注意を払っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **（1）居心地のよい環境づくり**				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 　利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の周りには季節の花々を植え、家庭的な雰囲気を作り、家族や近隣の住民の方々がいつでも気軽に安心して訪問できるように配慮している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 　共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	浴室は家庭用のユニットバスを使用し、居間にはコタツや仏壇等を置く等、家庭的な雰囲気を醸し出している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 　共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファーやコタツを置き、家庭に近い環境作りに努め、利用者がそれぞれ自由に寛げるような雰囲気を工夫している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 　居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使用していた調度品や物品が自由に持ち込まれ、本人に馴染みのある物の中で安心して生活していただけるよう工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 　気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	ホールやそれぞれの居室には換気扇を設置し、新鮮な空気をできる限り取り入れるように心がけている。又、冷暖房については、利用者の希望や状態を見ながら、適宜温度調節をおこなっている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 　建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒等の予防に努めながら、残存能力を活かせるよう、トイレ・浴室・廊下等に手すりが取り付けてあり、自立支援に役立っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 　一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	浴室やトイレ等には表札を設置し、各居室の入り口にはその方の名前を書いた表札を設置する等、一人ひとりにわかりやすいよう工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 　建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホール前のウッドデッキ、玄関先には長いすを置いて日光浴を楽しんだり、可能な限り洗濯物干しや植木への水やり等を、利用者と職員が一緒にできるよう支援している。		

（　　部分は外部評価との共通評価項目です　）

Ⅴ．サービスの成果に関する項目

項目			回答
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の２/３くらいの ③利用者の１/３くらいの ④ほとんど掴んでいない	①
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に１回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	①
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない	①
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない	①
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない	①
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない	①

項目			回答
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない	①
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	①ほぼ全ての家族と ②家族の２/３くらいと ③家族の１/３くらいと ④ほとんどできていない	①
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	①
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない	①
98	職員は、活き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の２/３くらいが ③職員の１/３くらいが ④ほとんどいない	①
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない	①
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の２/３くらいが ③家族等の１/３くらいが ④ほとんどできていない	①

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

①グループホームの隣には牧場があり、自然な環境に恵まれ、のんびりとした雰囲気の中で生活できる。
②利用者一人ひとりの能力を尊重した自立支援をおこない、家庭的な雰囲気の中でその方のペースで、その方らしい生き方ができる。
③花見やレクリエーション大会、夏祭りやクリスマス会・みかん狩り等、季節ごとの行事を計画し、出来るだけ外出の機会を多くもてるよう支援している。
④利用者が馴染みの関係を継続できるよう、知人や地域の方々との交流を支援している。